資料２

女性の職業生活における活躍推進プロジェクトチーム（第9回）

# 理工系人材の育成/教育分野のアンコンシャス・バイアス

2025. 1. 14.

河野銀子

教育社会学・ジェンダーと科学技術

九州大学男女共同参画推進室教授

# 本日の報告

**0. 自己紹介**

**0-1. 女子の理系進路選択研究**

**0-2. 教員のキャリア形成研究**

1. 女子の進路選択(大学進学／専攻分野)

1-1. 現状①　大学進学率の男女差と性別専攻分離

1-2. 現状②　理数系学力と非認知能力の男女差

1-3. 現状③　理科は女子が最も好きな教科

1-4. 現状④　文系／理系の自己認識の男女差

2. 教育分野のアンコンシャス・バイアス

2-1. 現状①　学校は「男女平等」というアンコバ

2-2. 現状②　職位上昇につれ女性低下する景色

2-3. 現状③　担当教科における性別分離の景色

2-4. 現状④　学校教員(小中)のジェンダー意識

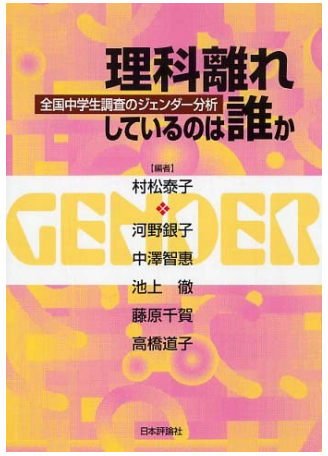
3. 今後に向けて

3-1. 女子中高生理系進路選択支援事業、アンコンシャス・バイアス動画

3-2. ジェンダー統計と海外動向

# 研究1:ジェンダーと科学技術政策/理系進路選択とジェンダー

中学生の理科学習 ➡ 高校生の理系進路選択 ➡ 女性研究者支援政策

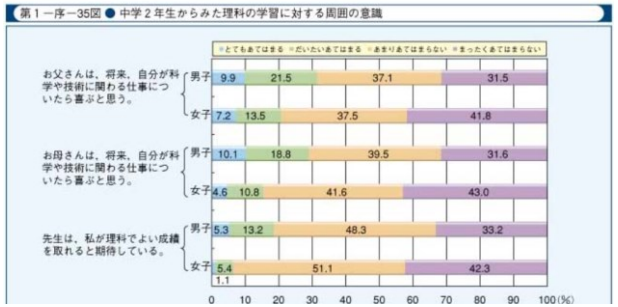


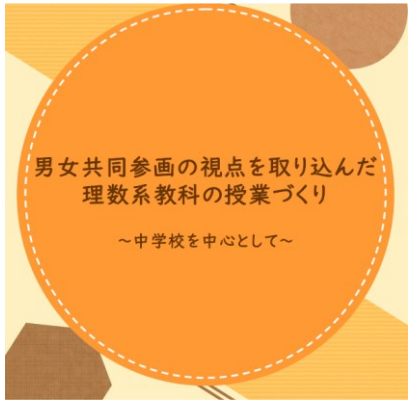

ー欧米で問題とされていた「女子と科学」研究に着手

ー国内の先行研究は皆無に等しい(数学はあり)

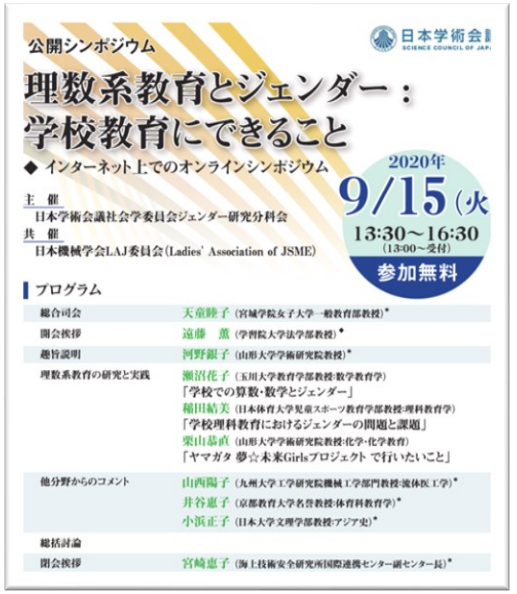
ー欧米では科学教育学の研究者が研究

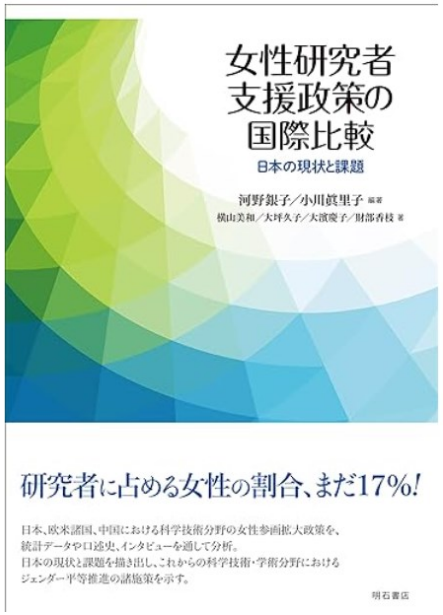
**ー「政策課題に！」→ 第2, 3次基本計画**




https://www.gender.go.jp/c-challenge/pdf/keihatsu.pdf




共同研究の結果の一部が『平成14年度科学技術白書』『平成17年度男女共同参画白書』に掲載

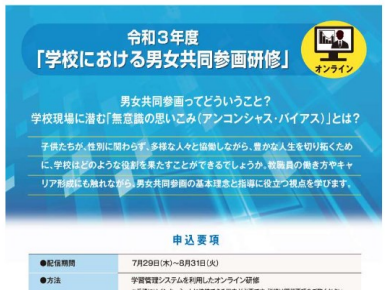
学術会議公開シンポ・内閣府啓発資料作成
理科教育学・数学教育学の研究者らとの連携

Gender Summit 2017
(分科会企画委員等)

※政府統計や調査、政策文書に依拠した研究が多いため、本報告では二分法的ジェンダーを用います。

# 研究2:教員のキャリア形成とジェンダー

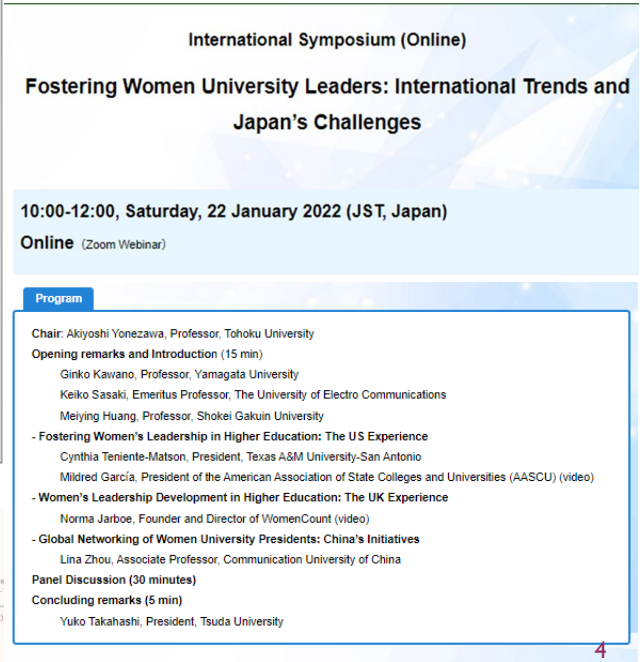
## 高校教員のキャリア形成：女性校長

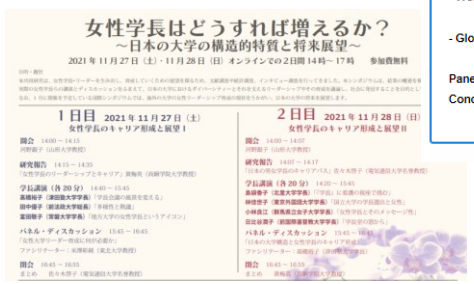


・教員対象の男女共同参画研修
・教育社会学テキスト

20250114_女性の職業生活における活躍推進PT9_河野銀子

## 大学教員のキャリア形成：女性学長




連続シンポジウム
（国内/国際）開催

# 本日の報告

0. 自己紹介

0-1. 女子の理系進路選択研究

0-2. 教員のキャリア形成研究

**1. 女子の進路選択（大学進学／専攻分野）**

**1-1. 現状①　大学進学率の男女差と性別専攻分離**

**1-2. 現状②　理数系学力と非認知能力の男女差**

**1-3. 現状③　理科は女子が最も好きな教科**

**1-4. 現状④　文系／理系の自己認識の男女差**

2. 教育分野のアンコンシャス・バイアス

2-1. 現状①　学校は「男女平等」というアンコバ

2-2. 現状②　職位上昇につれ女性低下する景色

2-3. 現状③　担当教科における性別分離の景色

2-4. 現状④　学校教員（小中）のジェンダー意識

3. 今後に向けて

3-1. 女子中高生理系進路選択支援事業、アンコンシャス・バイアス動画

3-2. ジェンダー統計と海外動向

# 1-1. 大学進学率の男女差と性別専攻分離

## 戦後日本の大学等への進学率(男女別)

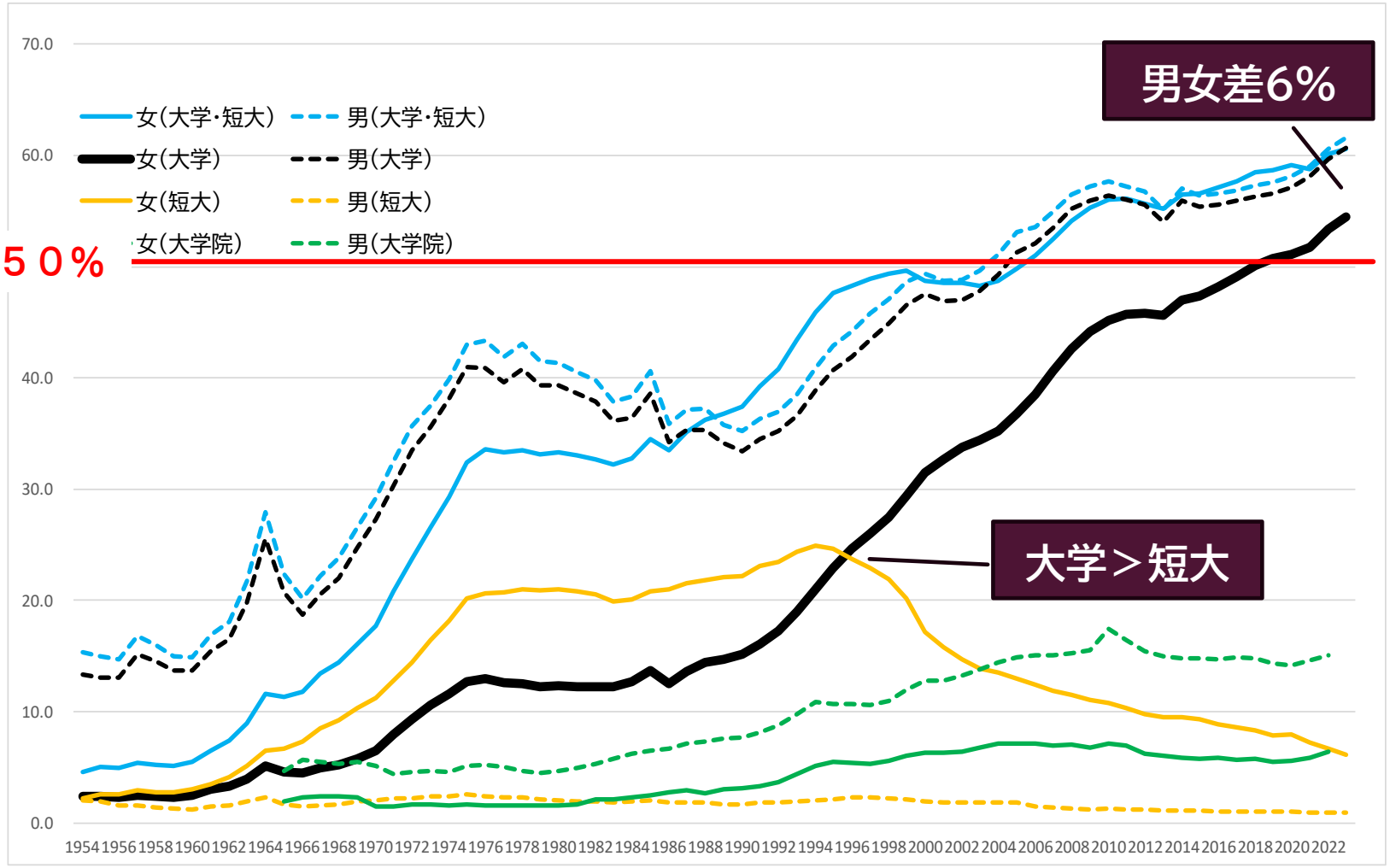
・女性の大学・短大進学率(青色)は、①60年代～70年代半ば、②80年代後半以降に顕著に上昇。

・①では、短大(橙色)女子大の役割が大きかった。

・90年代半ばには四大進学率(黒色)が短大進学率を上回った。

・2018年以降、女性の大学進学率は50%超(赤＝50%ライン)。

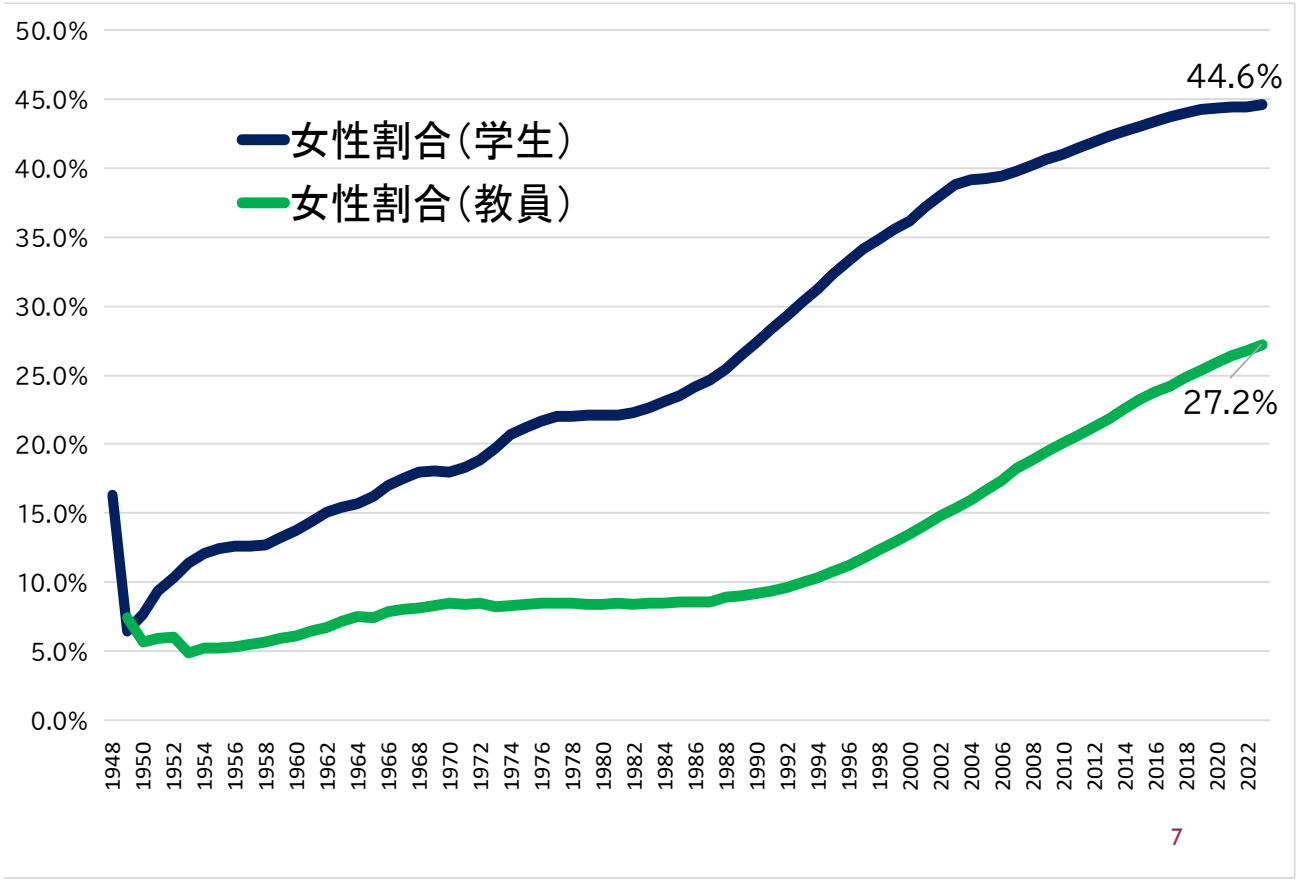
・2023年でも学部で約6%、大学院で約9%、男子が高い。




注)大学(学部)への進学率(過年度高卒者等を含む)とは大学学部入学者数(過年度高卒者等を含む)を3年前の中学校卒業者数で除した比率。
出所)国立女性教育会館「女性と男性に関する統計データベース」(https://winet.nwec.go.jp/toukei/search/?cator=439&cmid=678)より河野作成。

# 学部在学者と大学教員に占める女性割合の推移

- 学部在学者数に占める女性割合は、1993年に30%、2008年に40%を超えたが、女性学生割合50%、教員割合30%を下回る現状は米国の1970年代後半。
- 米国では80年前後、EU平均では90年代には学部生の過半数が女性、2010年には韓国や中国も学部、修士で女性割合の方が高くなった。




出所）文部科学省「学校基本調査」の「年次統計」「校種ごと総括表」をもとに河野が算出して作図。
教員は「本務教員数」、学生は学部の「在学者数」を用いている。

# 1-1. 大学進学率の男女差と性別専攻分離

## 専攻分野の構成比推移(1986～2023年)

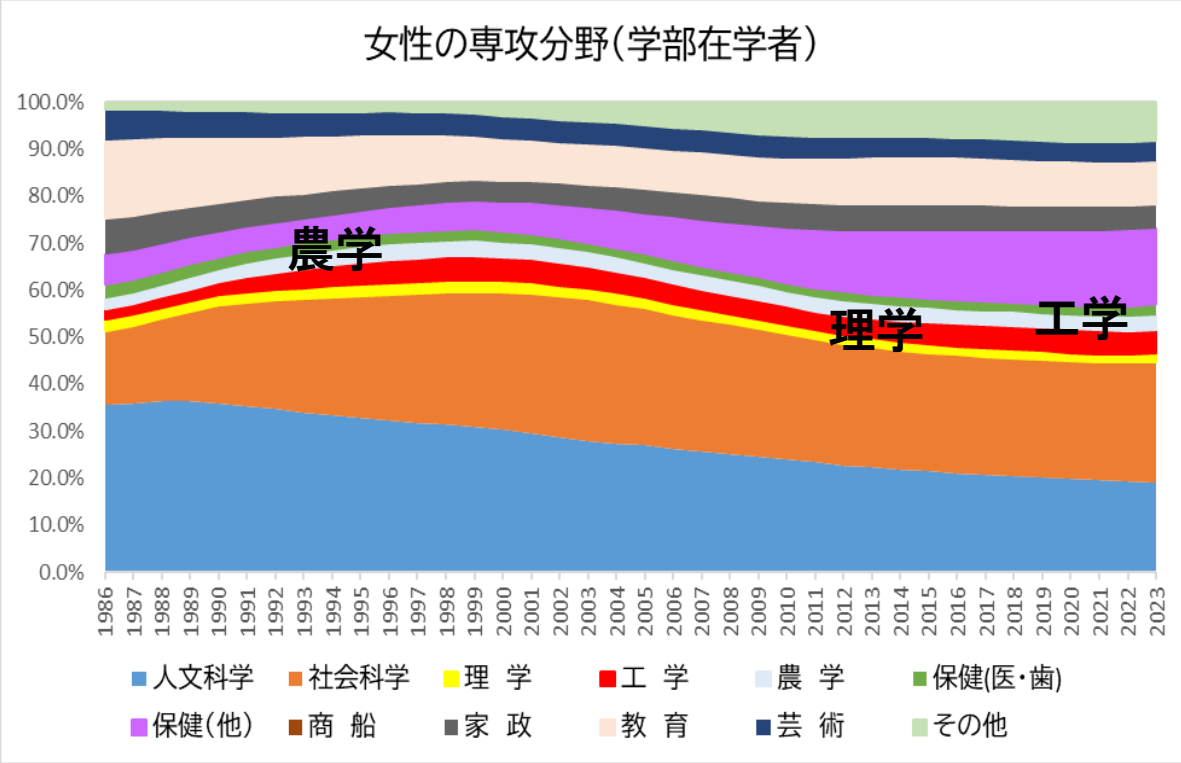
●女性は人文・教育➡社会・保健(他)、「その他」と「保健(その他)」の増加顕著:男性は一貫して社会科学・工学

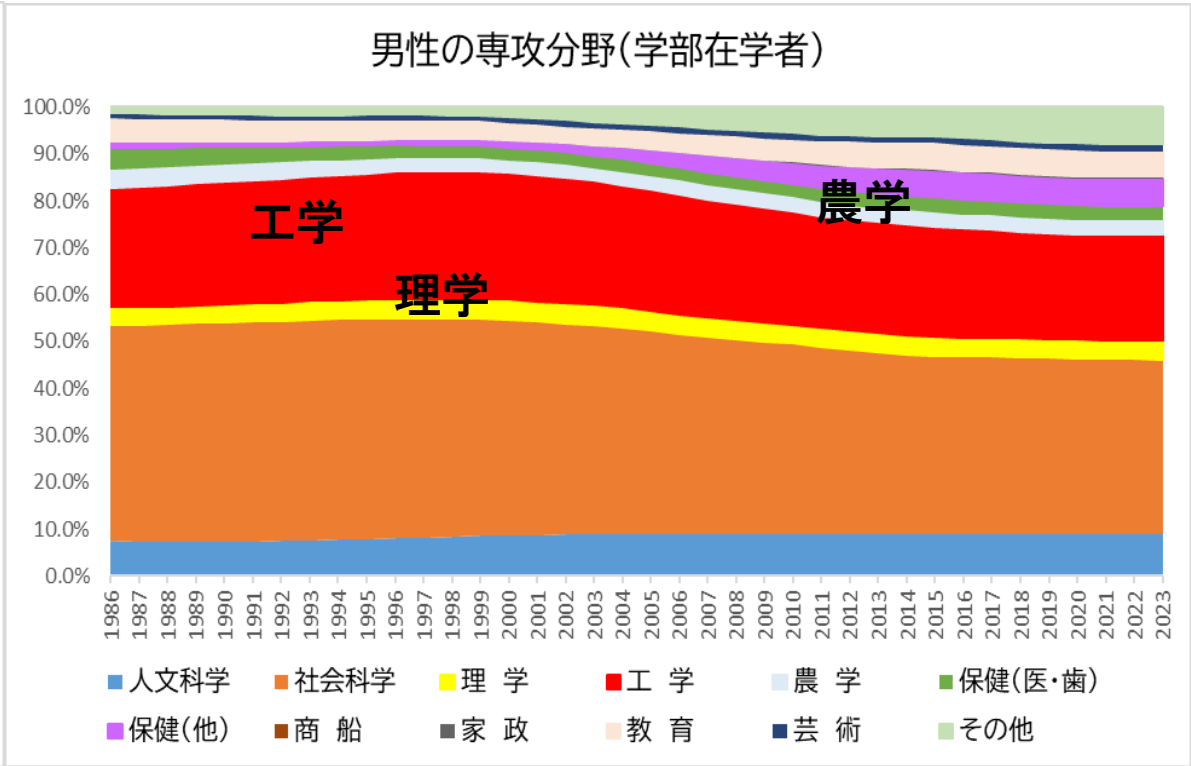
2008→2023:女子高校生の進路選択においてSTEM分野選択率が増加しているとは言い難い(男性も、、、)

女性 ●理学:2.0%→1.9% ●工学:4.2%→5.1% ●農学:2.9%→3.0%

男性 (4. 2→4.1%) (24.8→22.6%) (3. 0→3.0%)

※参考(1986年) 女性(理=2.5%、工=2.3%、農=2.1%) 男性(理=3.7%、工=25.6%、農=3.9%)




出所)文科省「学校基本調査」(各年度)をもとに河野が算出・作図。

# 学力調査の結果：教科別問題ごと正答率/無解答率の結果

- 文科省「全国学力・学習状況調査」（ほぼ悉皆）
- 2022年調査（国・数・理）中3生の男女別分析

※横山広美（東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構）代表のプロジェクト「**平等度上昇は、理工系ジェンダーの解消につながるか―都道府県別から見る**」でデータの貸与を文科省に申請し許可を得た（三浦まり、竹内明日香（以上、上智大学）もメンバー）。

- 教科調査（正答数・正答率）（**◆学力調査**）

  問題別分析（**内容領域/評価観点/問題形式**）
- 質問調査（**◆非認知能力**）

  教科の選好度/有用感等、科学技術職志向

- **国語（14問）**
  - **全問で女子の正答率は男子より高い**
  - 全問で男子の無解答率は女子より高い
  - 記述式（3問）で無解答率の男女差が大きい
- **数学（14問）**
  - **6問で女子の正答率、8問で男子の正答率が高い**
  - 13問で男子の無解答率は女子より高い（1問は男女差なし）
  - 選択式（4問）で無解答率の男女差が小さい（短答/記述で大）
- **理科（21問）**
  - **12問で女子の正答率、9問で男子の正答率が高い**
  - 19問で男子の無解答率は女子より高い
  - 記述式（5問）で無解答率の男女差が大きい

# 1-2. 全国学力・学習状況調査結果から（国際ジェンダー学会2024年大会・河野発表資料より）

## ①学力（正答数（率）・問題別分析） ②非認知能力（選好度・有用感・態度等）

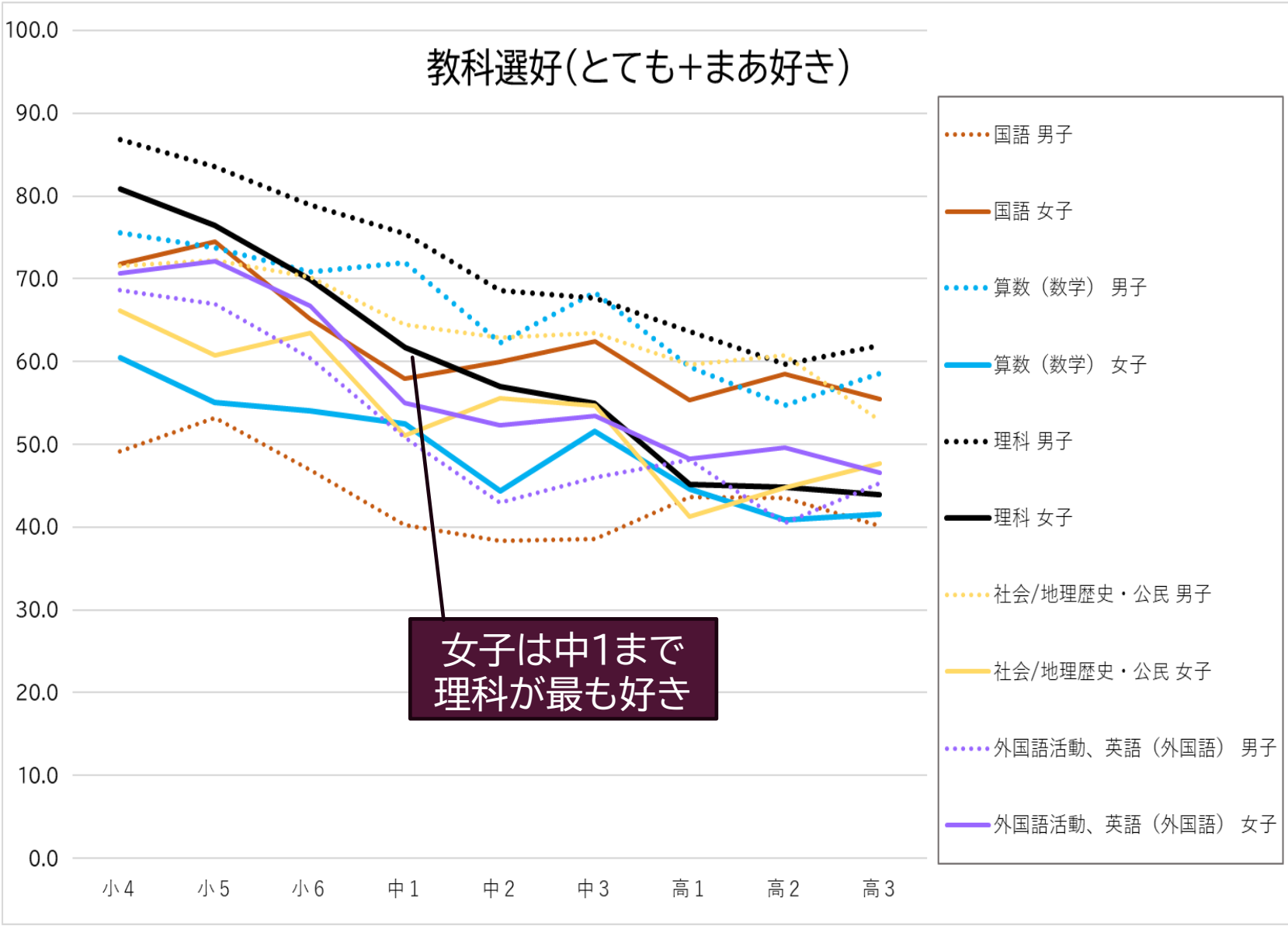
◎＝女子の正答（肯定）率が顕著に高い、 ○＝女子の正答（肯定）率が高い、
◆＝男子の正答（肯定）率が高い、 ー＝男女差なし

| | 学力 | | | | | | 非認知能力 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平均正答数 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 選択式 | 短答式 | 記述式 | 選好度 | 重要度 | 有用性 | 理解度 | 態度 |
| 国語 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 数学 | ー | ○ | ○ | ◆ | ○ | ○ | ◆ | ー | ー | ◆ | ◆ |
| 理科 | ◎ | ◆ | ○ | ◆ | ◎ | ◎ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ |

注）「内容領域」は教科によって項目に違いがあるため省略。

※詳細は2025年3月『ポリモルフィア』（九州大学男女共同参画推進室）Vol.10で公表。

# 1-3. 理科は女子が最も好きな教科　JLSCPデータから




・男女とも学年が上がると選好度が下がるが、40%を切る教科はほとんどない。

・一貫して、国語と外国語は女子＞男子、理科・算数数学・社会は男子＞女子。

・算数・数学は好きな女子が少ない教科

・理科は、小4～中1まで好きな女子が最多の教科（国語や外国語より好きが多い）

*・中3の理科学力は女子が高い*
*・中学で男女差縮小する国も*

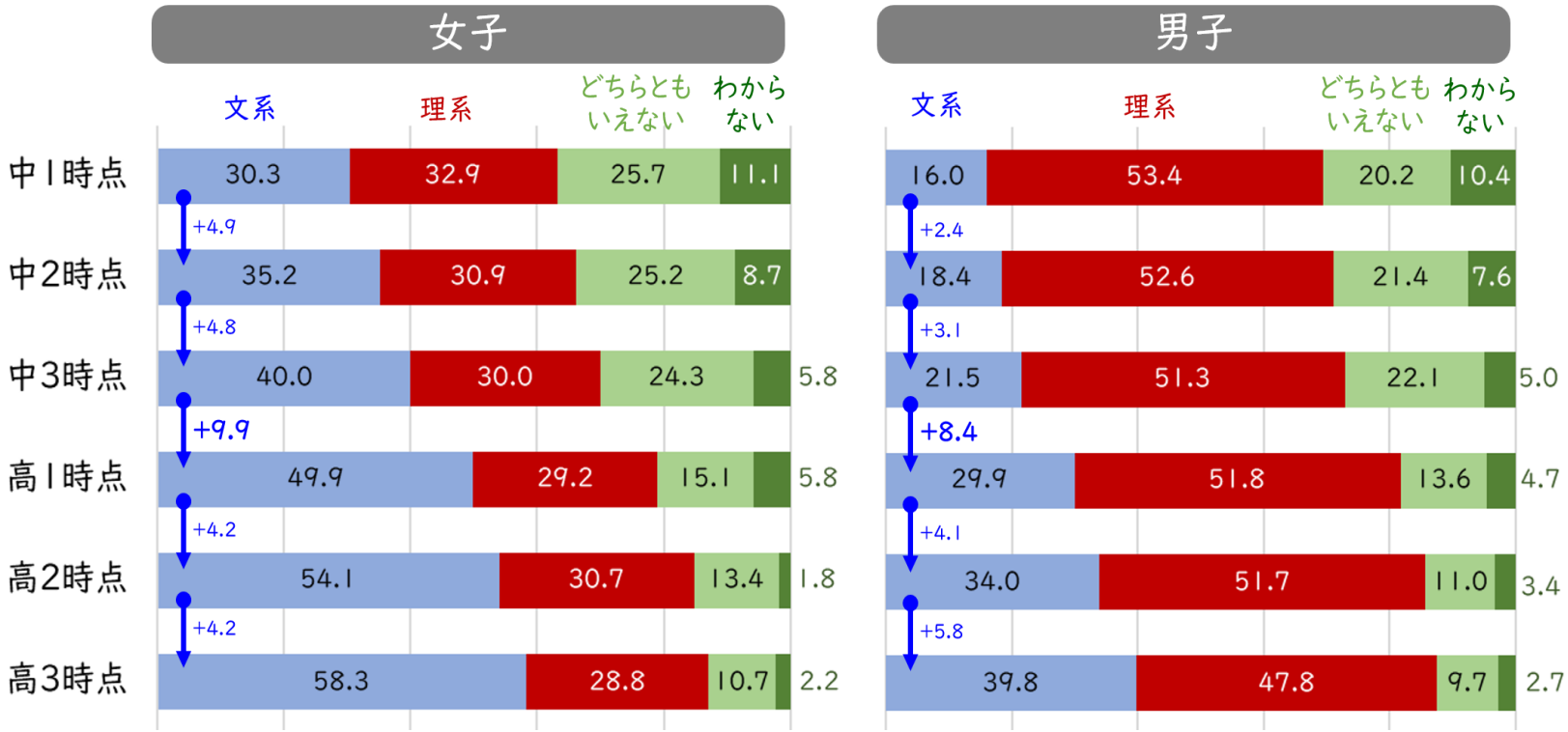
出所）東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査（JLSCP）」各年度データより河野が算出・作図

# 男女とも「理系意識」ほとんど変化しない

- 「理系意識」の女子は一貫して3割前後、男子は5割前後。
- 男女とも学年進行に伴って「文系」が増え、「どちらともいえない」「わからない」が減り、「文系」が増える（特に中3から高1）。
- 「どちらともいえない」「わからない」（文理融合、総合知）生徒の能力を活かせていない。

## ◆文理意識とジェンダー

Q:あなたは自分のことを「文系」だと思いますか、それとも「理系」だと思いますか。（「文系」とは国語や社会が得意な人、「理系」とは算数・数学や理科が得意な人を指します。




※すべての時点で$p$ <.001（$\chi$2乗検定）
※四年制大学・六年制大学を選択した1,668名。各時点での無回答者は除外している
※「文系」は「はっきり文系」「どちらかといえば文系」、「理系」は「はっきり理系」「どちらかといえば理系」を合わせた数値

出所）木村治生・河野銀子（2024）「日本教育社会学会第76回大会発表資料」（東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」のデータに基づき作図）

# 「理系意識」の女子の理系専攻は45%

- 「文系意識」の男子は8割以上が文系専攻、「理系意識」の男子は4分の3が理系専攻＝意識と専攻に関連性
- 「文系意識」の女子は7割以上が文系を専攻、**「理系意識」の女子は45%が理系を専攻、3割は医療・福祉系＝意識と専攻の関連性弱い**
- 「どちらともいえない」から、女子22.5%、男子25.5%が理系を専攻

- **「理系」意識の構造が男女で異なる、文理選択は女子に馴染まない可能性。**

  **（教育課程編成は各校の判断）**
- 「どちらともいえない」は、文理融合や総合知の時代に整合。

# ◆文理意識（高3時点）と専攻分野の関連

（%）

| | | 女子 | | | 男子 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 高3時点の文理意識 | | | 高3時点の文理意識 | | |
| | | 文系 | 理系 | どちらともいえない | 文系 | 理系 | どちらともいえない |
| 大学の専攻分野 | 文系の分野 | 72.0 | 18.8 | 40.0 | 82.6 | 11.1 | 49.1 |
| | 理系の分野 | 5.1 | 44.5 | 22.5 | 9.6 | 74.6 | 25.5 |
| | 医療・福祉系の分野 | 13.6 | 30.7 | 25.0 | 1.7 | 11.1 | 12.7 |
| | 芸術やデザイン系の分野 | 6.2 | 5.0 | 5.0 | 2.2 | 1.1 | 1.8 |
| | その他の分野 | 3.0 | 0.5 | 6.3 | 3.0 | 1.4 | 5.5 |
| | 決まっていない・わからない | 0.2 | 0.5 | 1.3 | 0.9 | 0.7 | 5.5 |
| | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

※$p$ <.001（$\chi$2乗検定）
※四年制大学・六年制大学を選択した1,668名。高3時点での文理意識、高校卒業時点での専攻分野の無回答者は除外している
※「文系」は「はっきり文系」「どちらかといえば文系」、「理系」は「はっきり理系」「どちらかといえば理系」を合わせた

出所）東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査（JLSCP）」のデータに基づき木村治生（ベネッセ総合研究所）作表）

# 本日の報告

0. 自己紹介

0-1. 女子の理系進路選択研究

0-2. 教員のキャリア形成研究

1. 女子の進路選択(大学進学／専攻分野)

1-1. 現状①　大学進学率の男女差と性別専攻分離

1-2. 現状②　理数系学力と非認知能力の男女差

1-3. 現状③　理科は女子が最も好きな教科

1-4. 現状④　文系／理系の自己認識の男女差

2. 教育分野のアンコンシャス・バイアス

2-1. 現状①　学校は「男女平等」というアンコバ

2-2. 現状②　職位上昇につれ女性低下する景色

2-3. 現状③　担当教科における性別分離の景色

2-4. 現状④　学校教員(小中)のジェンダー意識

3. 今後に向けて

3-1. 女子中高生理系進路選択支援事業、アンコンシャス・バイアス動画

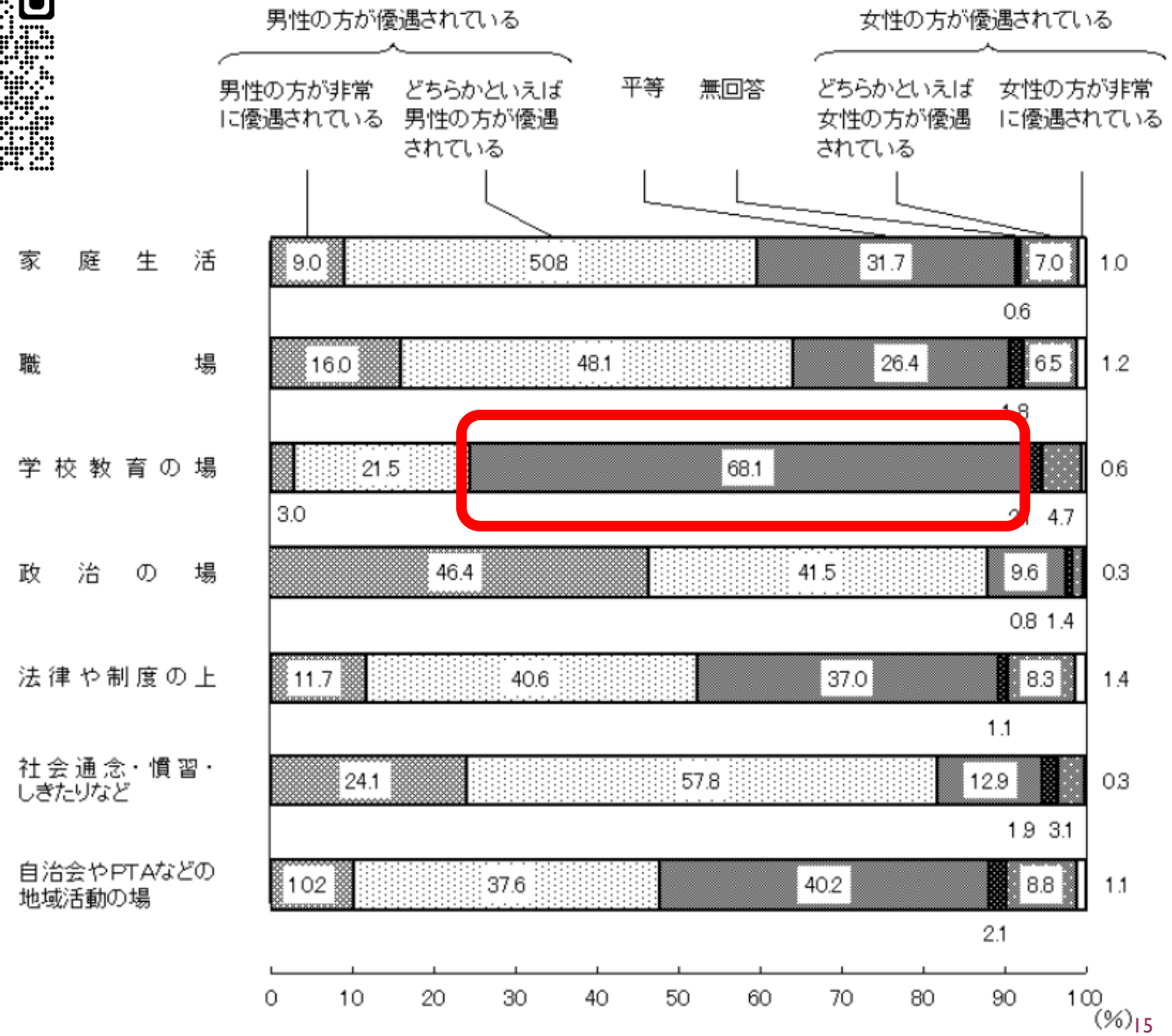
3-2. ジェンダー統計と海外動向

# 2-1. 学校は「男女平等」というアンコバ

## 平等幻想

- 国民の7割は学校教育は「男女の地位が平等」だと思っている。
- 平等だと思う国民は、家庭や職場のみならず法律や制度よりはるかに多い。
- この思い込みが学校の不平等問題を見逃してしまう一因では？

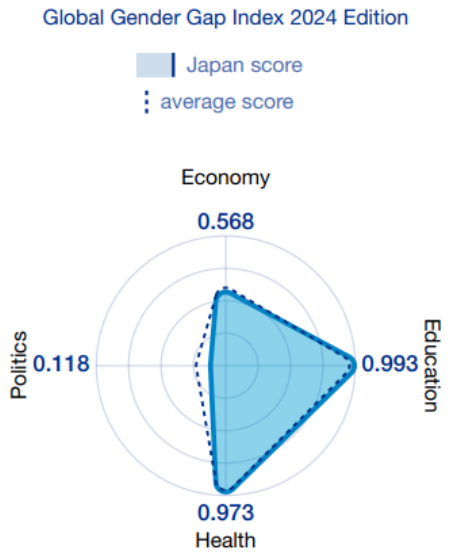
図　各分野の男女の地位の平等感




出所）内閣府男女共同参画局（2023）「男女共同参画に関する世論調査（令和4年11月」

# 日本の第三段階教育は問題あり
## ～ジェンダーギャップ指数(WEF)2024～

| Economy Profile | Score (imparity = 0, parity = 1) | Rank (out of 146 countries) | Index Edition |
|---|---|---|---|
| Japan | 0.663 | 118th | 2024 |




Overview

| Index and Subindex | 2024 Score | 2024 Rank | ▼2023 Score | ▼2023 Rank |
|---|---|---|---|---|
| Global Gender Gap Index | 0.663 | 118th | 0.647 | 125th |
| Economic Participation and Opportunity | 0.568 | 120th | 0.561 | 123rd |
| Educational Attainment | 0.993 | 72nd | 0.997 | 47th |
| Health and Survival | 0.973 | 58th | 0.973 | 59th |
| Political Empowerment | 0.118 | 113th | 0.057 | 138th |

- ●146か国中、118位
- ●経済、教育、健康、政治
- ●第三段階教育　107位

| | | |
|---|---|---|
| Educational Attainment | 72nd | 0.993 |
| Literacy rate % | 1st | 1.000 |
| Enrolment in primary education % | - | - |
| Enrolment in secondary education % | 1st | 1.000 |
| Enrolment in tertiary education % | 107th | 0.969 |



出所)世界経済フォーラム「Global Gender Gap Report 2024」(https://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2024.pdf)

# 2-1. 学校は「男女平等」というアンコバ

●男女共同参画基本計画の成果目標となっている項目等の都道府県差異の状況

●矢印が上下に長ければ長いほど、地域間格差が大きい＝ジェンダー格差大

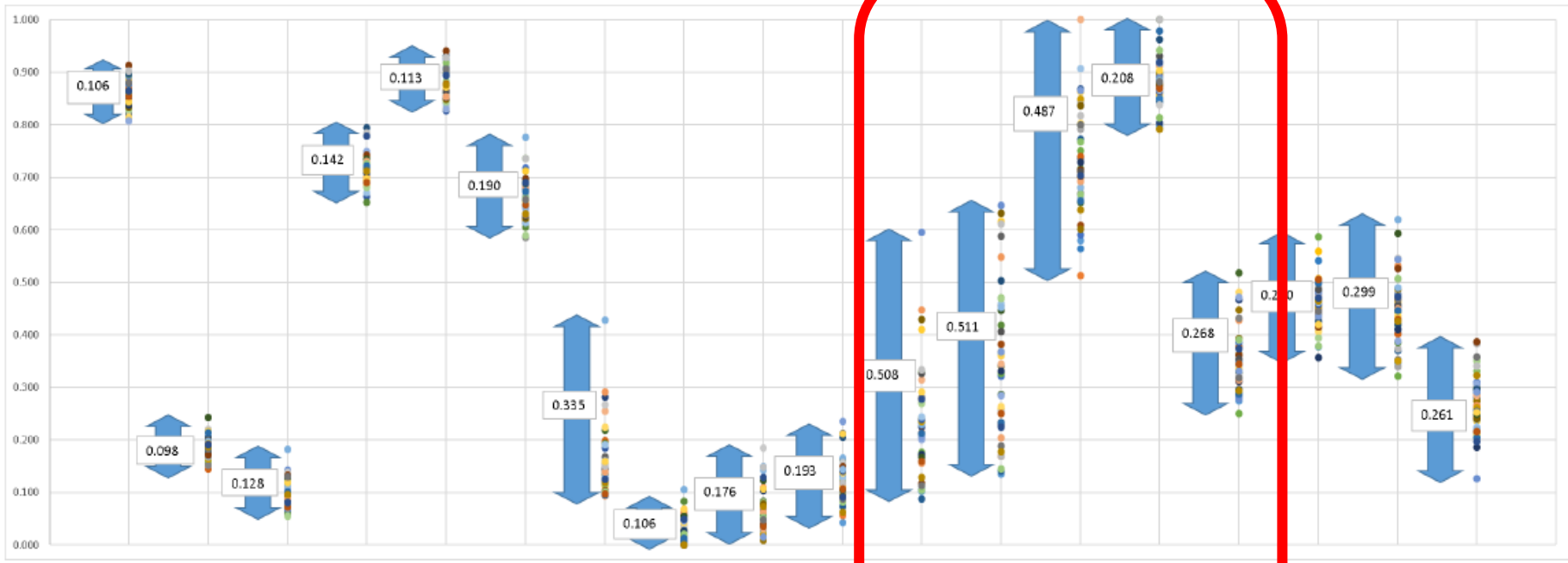
❖ ❖ ❖

**【教育分野】**は【政治分野】や【経済分野】より男女格差の地域格差が大きい

参考資料38

## 都道府県ごとの男女共同参画状況の可視化

○都道府県によって各項目の進捗にばらつきがあり、それぞれの地域の状況に応じた取組が必要。




| 労働力率の男女比 | 管理的職業従事者の男女比 | 技術者の男女比 | 推定年間給与額の男女比 | 25歳から44歳までの就業率の男女比 | 25歳から44歳までの正規雇用率の男女比 | 都道府県議会議員と市区町村議会議員の男女比 | 首長・副首長の男女比 | 自治会長の男女比 | 防災会議委員の男女比 | 初等中等教育機関の校長の男女比 | 初等中等教育機関の副校長・教頭の男女比 | 都道府県教育委員と市町村教育委員の男女比 | 四年制大学進学率の男女比 | 大学の教員の男女比 | 女性の子宮頸がん・乳がんの検診受診率 | 25歳から44歳までの就業医師の男女比 | 6歳未満の子供を持つ夫婦の育児・家事関連時間比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経済 | | | | | | 政治 | | | | 教育 | | | | | 健康・家庭 | | |

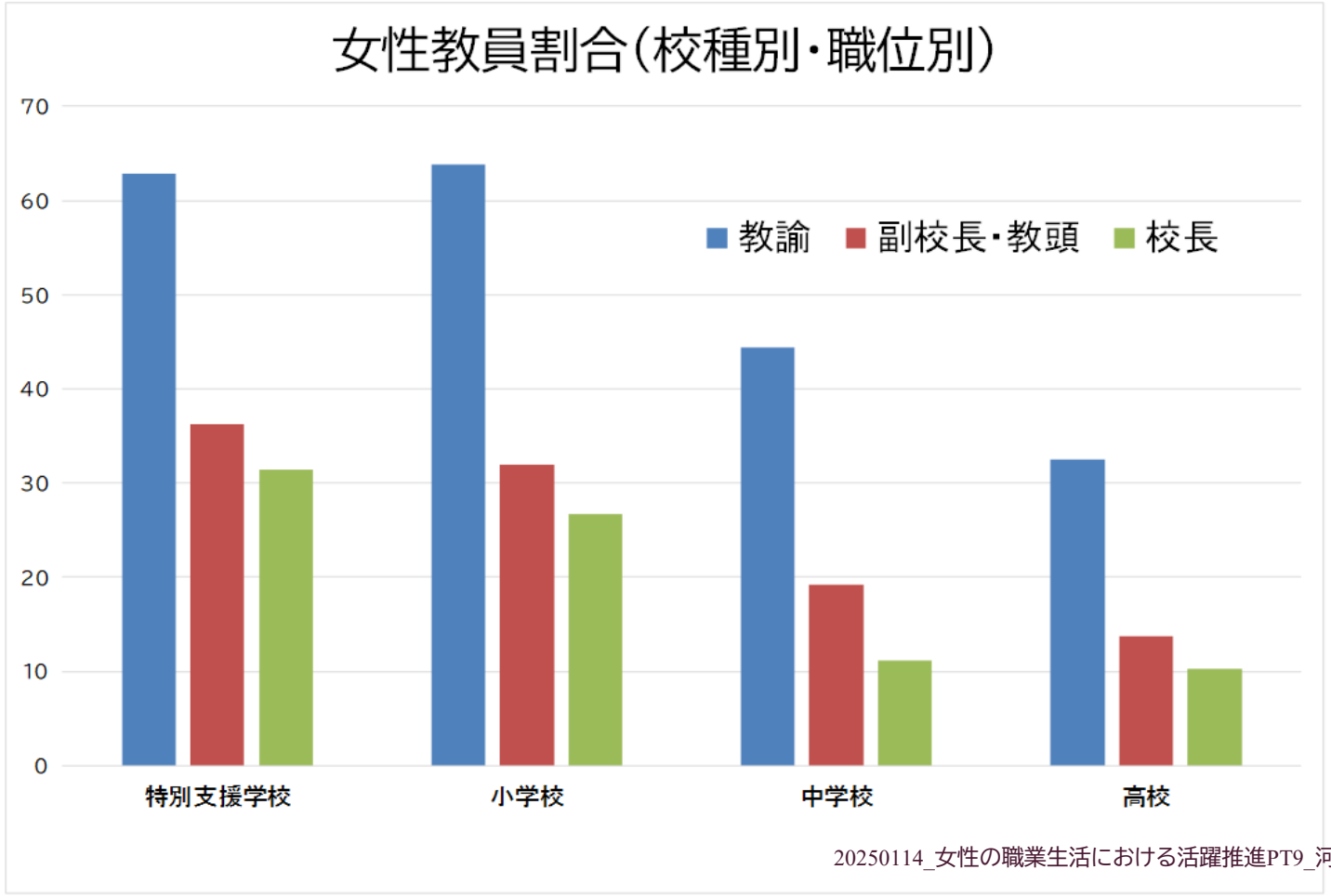
出所：内閣府男女共同参画局「女性活躍・男女共同参画における現状と課題」（令和5年4月11日開催「独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）及び男女共同参画センターの機能強化に関するワーキング・グループ」配布資料別添1）（https://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/wg-nwec/pdf/wg_01.pdf）

# 校種別にみた女性割合（教員／副校長・教頭／校長：公立）

- 小（特）→中→高と、職務内容のケア的要素が減り教科・受験指導が増えると女性割合が下がる
- どの校種も、教員→副校長・教頭→高校と職位が上がると女性割合が下がる
- 中高の女性教員は半数以下、校長の9割が男性

◆子どもたちが見ている景色はジェンダー平等とは言えない

➡校種や都道府県等での取組み



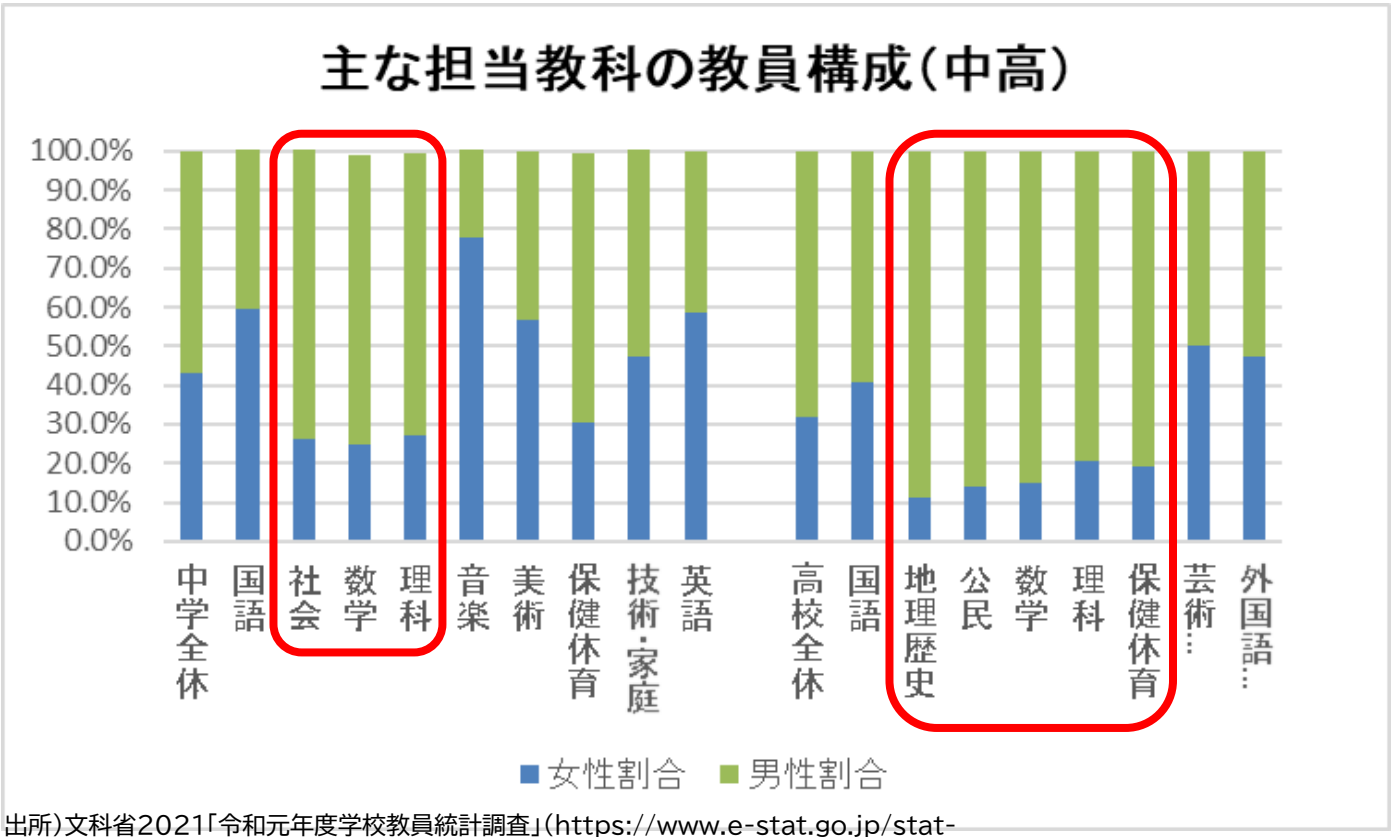

20250114_女性の職業生活における活躍推進PT9_河野銀子

出所）文部科学統計要覧（2024）（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/1417059_00009.htm）の「教員数」をもとに河野算出・作図。
注）学校要覧における「主幹教諭」「指導教諭」「助教諭」等は「教諭」に含まない。データは国立・公立・私立の計。

# 2-3. 担当教科における性別分離の景色

## 中高教員：全体に女性割合が低く、理数系、社会科系、保体でとくに低い

### 子どものアンコンシャスバイアスをつくる:「隠れたカリキュラム」




出所)文科省2021「令和元年度学校教員統計調査」(https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400003&tstat=000001016172)より担任教科別教員構成と本務教員数を用いて河野が算出・作図。

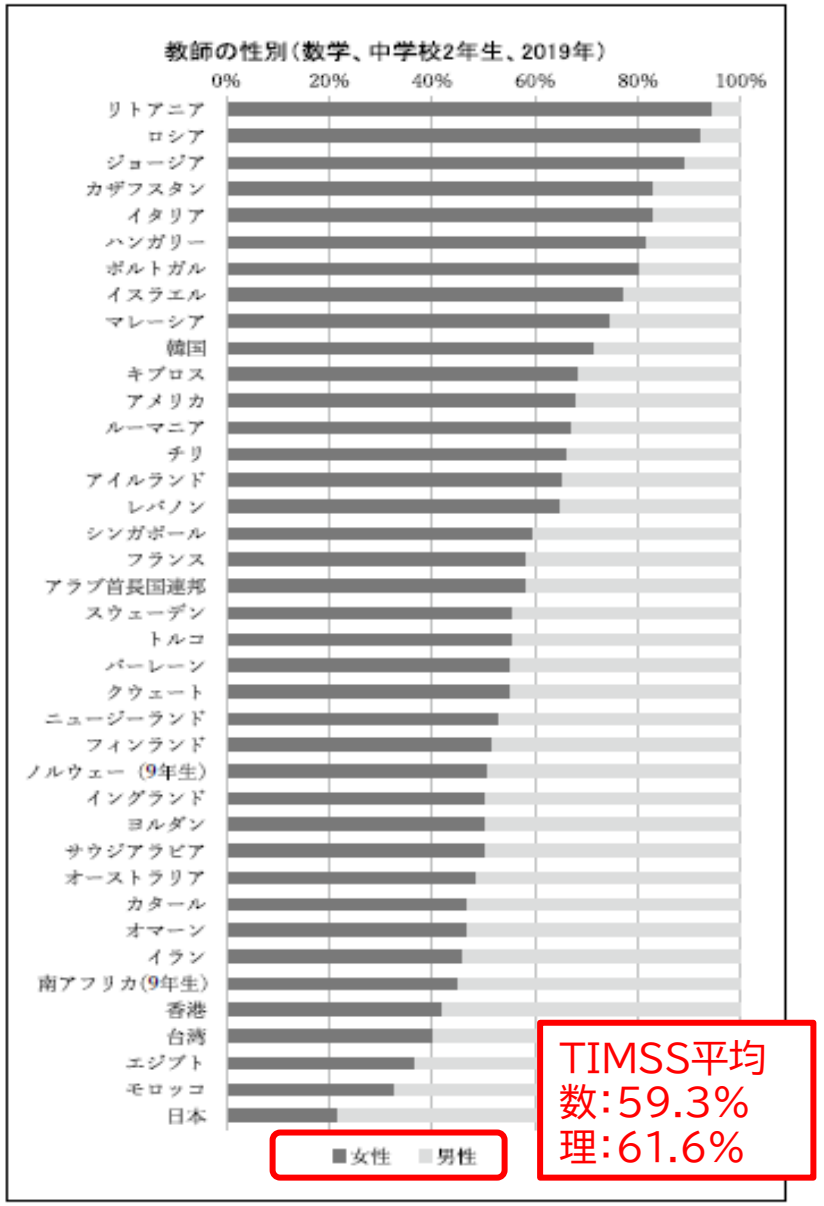



図2　TIMSS調査における数学教師の性別（中学校2年、2019年）

注：TIMSS調査において生徒は統計的手続き（サンプリング）により選ばれている。教師はサンプリングで選ばれた生徒に指導しているが、教師自身がサンプリングによって選ばれた訳ではない。そのため統計的な有意差には言及できないが、日本の女性教師の割合は参加国の中で最も低い。
https://timss2019.org/international-database/Data Almanacsの中の「T19_G8_MAT_TeacherAlmanac」p. 4のデータを基に瀬沼作成

出所)瀬沼花子(2021)「学校での算数・数学とジェンダー」『学術の動向』7,p25.

# 教員のジェンダー意識(性別ステレオタイプ)

●管理職や理数系能力に関して、性別ステレオタイプ的な考えを肯定する教員は、否定する教員より少ないものの、4分の1程度存在。

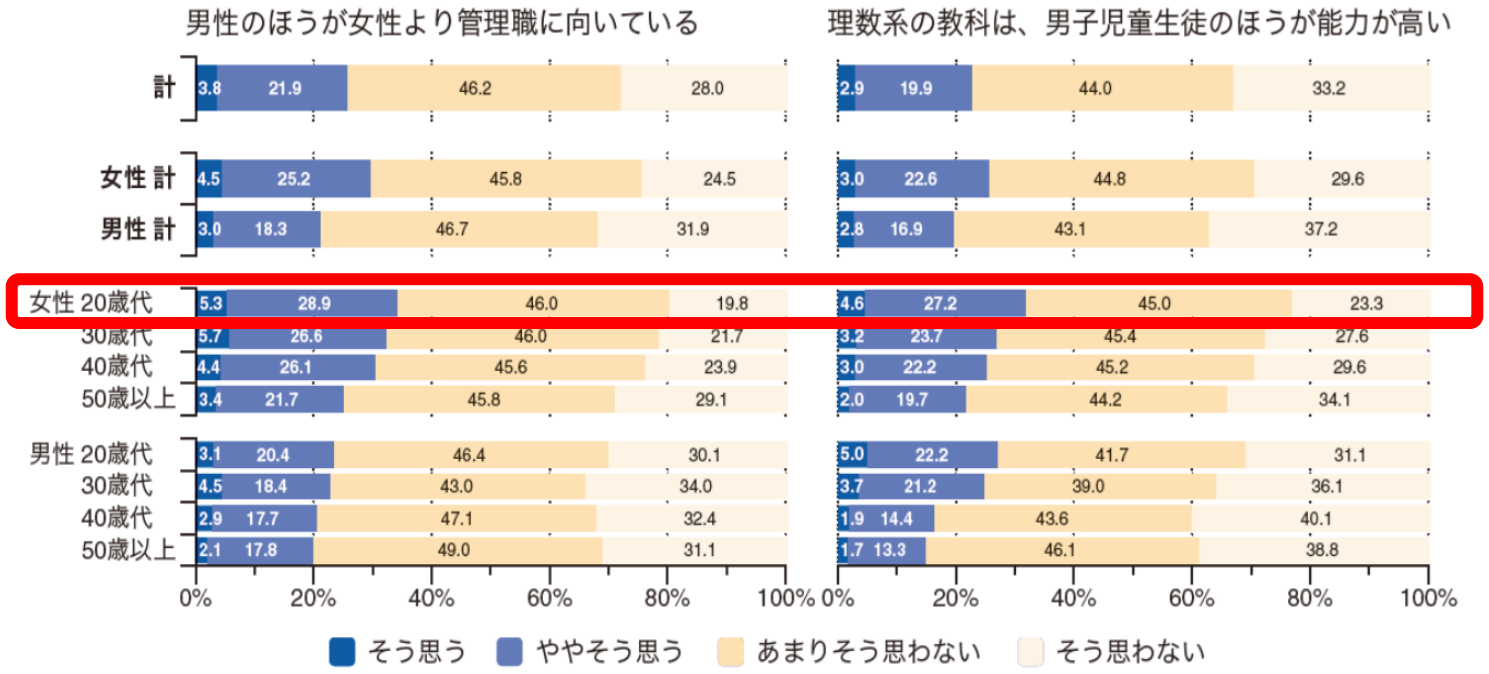
●女性教員は男性より性別ステレオタイプ的な考えを肯定する割合が高く、その傾向は若くなるほど一層強くなる。

●「理数系の教科は男子児童生徒の方が能力が高い」を肯定する20代女性教員は32%(最も低いのは50歳以上男性15%)。

→米国:ジェンダーステレオタイプをもつ教員が担当すると女子の成績が下がるという研究

→日本:男女呼び分けをしない取り組みや女性理科教員増加は理系進学の男女差縮小に効果

図 15 「男性のほうが女性より管理職に向いている」
「理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い」




出所)(独)国立女性教育会館(2018)「学校教員のキャリアと生活に関する調査」結果の概要
※調査対象は、小中学校教員。

# 本日の報告

0. 自己紹介

0-1. 女子の理系進路選択研究

0-2. 教員のキャリア形成研究

1. 女子の進路選択(大学進学／専攻分野)

1-1. 現状① 大学進学率の男女差と性別専攻分離

1-2. 現状② 理数系学力と非認知能力の男女差

1-3. 現状③ 理科は女子が最も好きな教科

1-4. 現状④ 文系／理系の自己認識の男女差

2. 教育分野のアンコンシャス・バイアス

2-1. 現状① 学校は「男女平等」というアンコバ

2-2. 現状② 職位上昇につれ女性低下する景色

2-3. 現状③ 担当教科における性別分離の景色

2-4. 現状④ 学校教員(小中)のジェンダー意識

**3. 今後に向けて**

**3-1. 女子中高生理系進路選択支援事業、アンコンシャス・バイアス動画**

**3-2. ジェンダー統計と海外動向**

# 現状の政策等について：女子の理系選択支援 だれに、どのように届けるか？【交差性】

**交差性：ジェンダーと地域**

- 進路選択の男女差

→ 意識問題？

**地方と都市部では選択肢が異なる【選択格差】**

・通学圏内にある大学数

・大卒労働市場へのシフト

→ 家庭要因？

**家庭における有形無形の資源が異なる【出生格差】**

・自宅外通学にかかる経費

・親世代の女性大卒者率

・上位層では男女差解消

**➡ 地域や家庭の後押しを得られない生徒への支援**

図表３　女性の４年制大学進学率と関連がみられる地域指標

| 指標名 | 相関[1)] | 正／負[2)] |
|---|---|---|
| 女性の自県大学進学率 | .43** | ＋ |
| 女性の同地域ブロック内大学進学率 | .38** | ＋ |
| 大学収容力[3)] | .82** | ＋ |
| 親世代（40～64歳）の女性大卒者率 | .85** | ＋ |
| 一人当たり県民所得 | .63** | ＋ |
| 女性有業率（15～64歳） | -.35* | － |

図表４　理学分野の入学者における女性比率と関連がみられる地域指標

| 指標名 | 相関[1)] | 正／負[2)] |
|---|---|---|
| 女性の4年制大学進学率 | .43** | ＋ |
| 理学部収容力[3)] | .52** | ＋ |
| 親世代（40～64歳）の女性大卒者率 | .49** | ＋ |

図表５　工学分野の入学者における女性比率と関連がみられる地域指標

| 指標名 | 相関[1)] | 正／負[2)] |
|---|---|---|
| 県内総生産に占める製造業の割合 | -.38** | － |
| 県内総生産に占める情報通信業の割合 | .33* | ＋ |
| 有業者に占める製造業に従事している者の割合 | -.41** | － |
| 理科教員における女性比率 | .33* | ＋ |

出所）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（内閣府委託調査）（2021）『女子生徒等の理工系分野への進路選択における地域性についての調査研究調査報告書』

# 3-1. 女子中高生理系進路選択事業、アンコバ

●高校生の**進路選択における考慮事項**として、男性より**女性の方が「経済的なこと」**をあげ、その割合は**「人口5万人未満」で最も高い**（52.9%）。

●**自宅から通える**など地理的なことを考慮する女性は、**「人口50万人以上」で最も高く**（41.5%）、**「人口5万人未満」で最も低い**（32.6%）。

➡ 人口規模が小さい場合、進学や就職で地元を離れるのは自明。**個人要因に見えるが、多分に地政学的条件が影響。**

●マスにアプローチできる**学校の教育課程内**での実施

●やむを得ずイベント型なら、**人口5万人未満の自治体**の女子

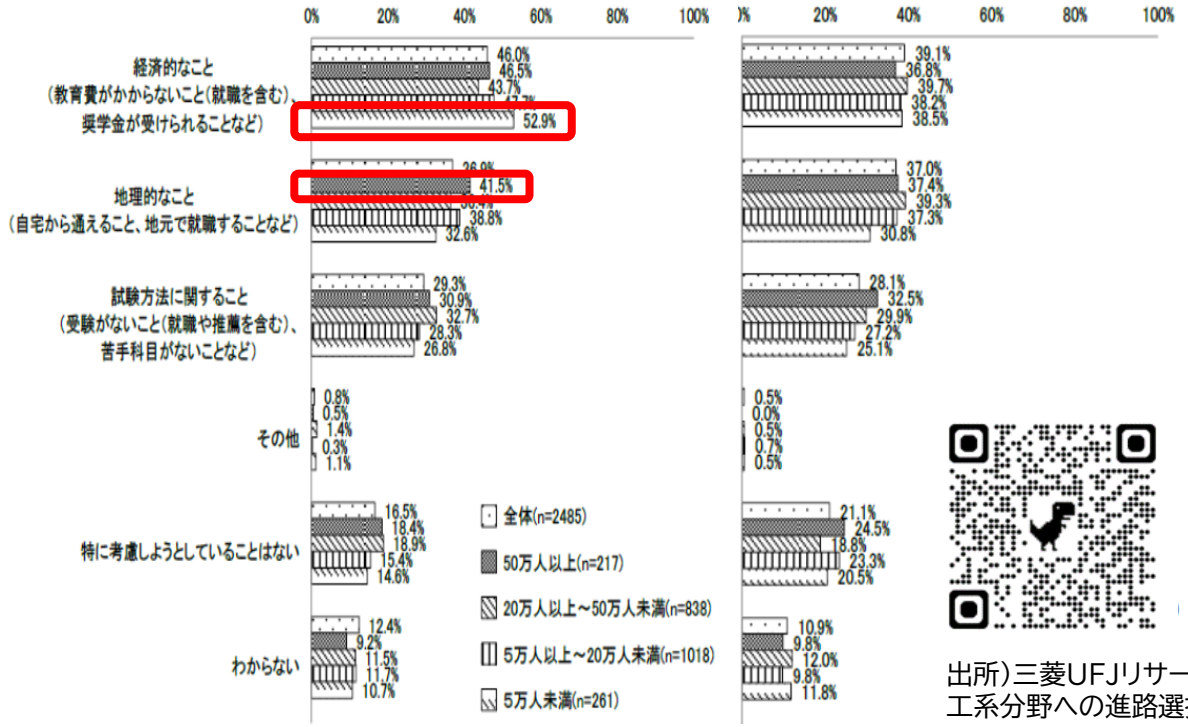
ー経済的なことを気にし、自宅通学をあきらめている。

ー科学館・博物館に連れて行ってもらったり、理工系進学に関するイベント類への参加経験が少ない。

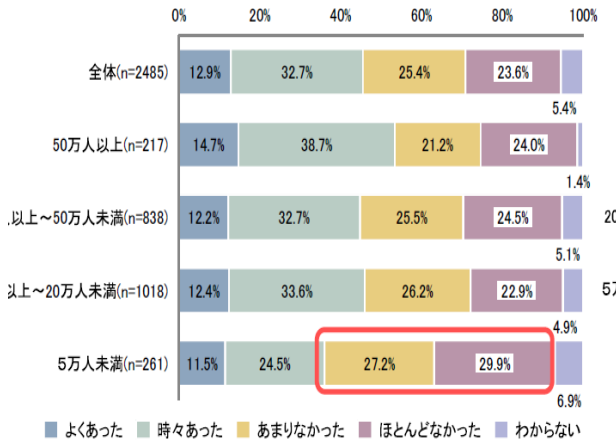
※米：**貧困層**へのアプローチ

●児童養護施設（短大・大学・専門への進学率20%程度）、特別支援学校、非進学校等、大学進学に不利な状況の児童生徒への出前

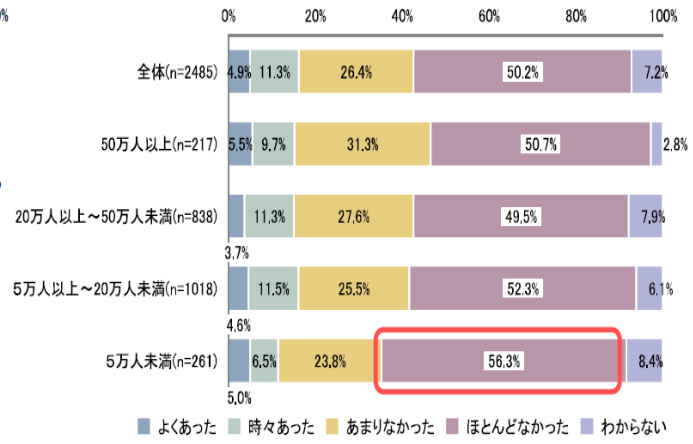
<女性>




図表10　人口規模別
「保護者に、科学館や博物館に連れていってもらうこと」があったか（女性）：単数回答（Q25_3）

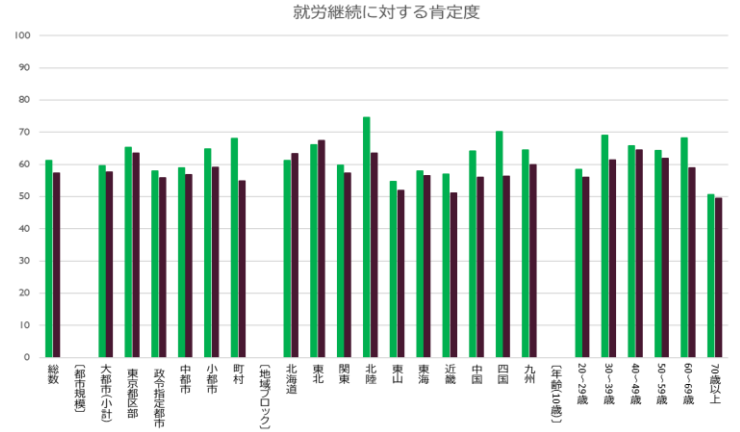



図表11　人口規模別
「大学や自治体などが主催する、理工系進学に関するイベント・シンポジウムに参加すること」があったか（女性）：単数回答（Q25_6）

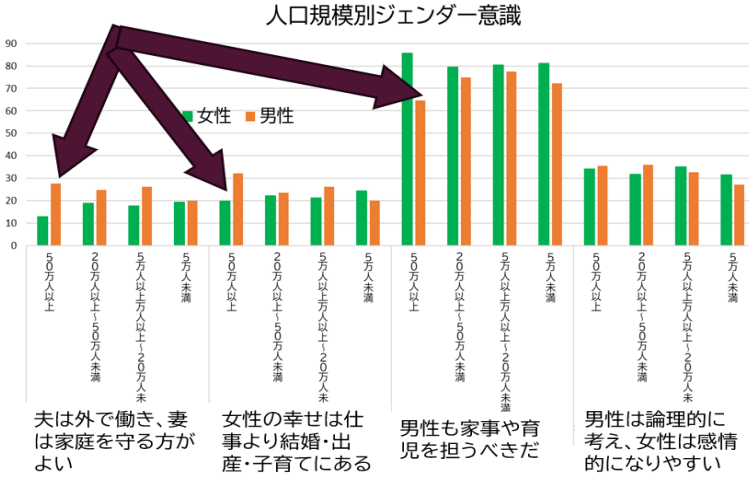



出所）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（内閣府委託調査）（2021）『女子生徒等の理工系分野への進路選択における地域性についての調査研究調査報告書』

# 3-1. 女子中高生理系進路選択事業、アンコバ




出所）内閣府男女共同参画局（2023）「男女共同参画に関する世論調査（令和4年11月」のデータに基づき河野作図
※女性が職業を持つことに対する意識のうち「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」を選択した率




出所）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（内閣府委託調査）（2021）『女子生徒等の理工系分野への進路選択における地域性についての調査研究調査報告書』のデータの基づき河野が算出・作図。

## 現状の政策等について：アンコンシャス・バイアス だれに、どのように届けるか？【交差性】

- ジェンダー・バイアスがあるのは誰か？

→ 教員の場合は、男性より女性、シニアより若年層

●大学の教職課程、現職教員の研修での必修化

参）教科書等の表象分析を教員養成で、教科科目の教え方を教育実習で（仏）

→ 世論調査：「出産後も就労継続」の選択率は、女性より男性がやや高く、
男女差は町村より東京都区部で小さい。
女性の意識は都市規模が小さくなるほど、また北陸や四国で高い。

●地域ごとの傾向を踏まえたアプローチ

→ 高校生調査：人口50万人以上の自治体の男子高校生はコンサバ（女子との差、他の人口規模の男子との差が大きい）

●男子も取り込んだ高校生対象のジェンダー関連学習機会

参）フランス教育省「性差別主義にブザーを鳴らせ！」ビデオ制作コンテスト

# 今後に向けて(1) 本報告のレビュー

## 1)女子の理系進路選択

### ■ 学校の教育課程における実効性ある取組みが必要

・女子が国語がよくできることを活かした理数系教育の開発(教材開発・授業開発)

・中1以降「理科が好き」な女子が減る原因の追究とそれにもとづく改善方法の考案

・男子の国語学習への注力と、理数系の「記述式」でも解答できる指導方法の検討

・自分を文理に二分する意識を持たない生徒の能力(総合知)を活かす教育課程

➡ これらの組織的取組みは行われていないため、
学校ー研究ー政策の連携による研究開発から必要

### ■ イベント系支援事業は進学に不利な立場にフォーカス

・人口5万人未満の自治体

・非進学校、専門高校、児童養護施設、特別支援学校等

➡ これまでのイベント参加の男女数が不明のケースが散見されるが、
効果を測定するためジェンダー統計が必須

## 2)アンコンシャス・バイアス

### ■ 無関心層や非熱心層に届ける仕掛けの検討

・サイエンス・カフェや進路指導など、他事業・行事に組み込む

・動画コンテスト等、生徒や教員、保護者が参画できる方法の検討

### ■ 教員が子どもたちのアンコンシャス・バイアスを作らないようにする取組みが必要

・中高の理数系教科をはじめとする教科別ジェンダーバランスの改善(大学進学時の専攻分野の問題解消、一般学部からの教職優遇?)

・大学の教職課程や現職教員の研修で男女共同参画関連の学習を必修化

・アンコンシャス・バイアスに陥らない教材・授業開発のための支援

### ■ 地域や世代も考慮したアプローチ

・これまで男女共同参画事業等に積極的でなかった自治体等

・男子高校生のジェンダー意識が高くない(特に都市部)

**実態把握・政策評価に資するジェンダー統計の整備**

# 今後に向けて(2) 海外動向から

- **欧米の初等中等教育での蓄積**

・教科書等からジェンダー不平等表現をなくす

・徹底した授業分析による教材開発・授業開発

・学校ー研究ー政策の往還

- **欧米の大学教育にみる新動向**

・工学部等でのジェンダー関連授業の必修化

・全分野カリキュラムへのジェンダー視点導入

- **「女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約」(1979年国連総会)第10条(c)**

**すべての段階及びあらゆる形態の教育における男女の役割についての定型化された概念の撤廃を，この目的の達成を助長する男女共学その他の種類の教育を奨励することにより，また，特に，教材用図書及び指導計画を改訂すること並びに指導方法を調整することにより行うこと。**

出所)内閣府男女共同参画局
https://www.gender.go.jp/international/int_kaigi/int_teppai/joyaku.html

- **STEM分野への女性参画拡大が期待されるワケ**

**不平等は可能性の芽を枯らし、卓越性は多様性を必要とするから。**

出所)ヘルガ・リュープザーメン=ヴァイクマン他(小川眞里子他訳)『科学技術とジェンダー:EUの女性科学技術者政策』(明石書店、2004)



END